授業科目名：日本語学 究 1	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：川村大 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本語研究に関する専門的知識や研究手法を身につける。特に、先行研究を批判的に検討し、参加者各自のテーマを深める手法を実践的に身につけることを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>参加者各自の研究テーマに関する重要文献（複数）について報告し、討論する。取り上げる論文は現代語・古典語を問わないが、主に現代語に関する文献を取り上げる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の進め方についての説明、取り上げる文献について相談、発表の順番決め。</p> <p>第2回：先行研究をなぜ読むのか、どのように読むのかに関する講義</p> <p>第3回：論文①の概要を把握する。</p> <p>第4回：論文①を批判的に検討する。</p> <p>第5回：論文②の概要を把握する。</p> <p>第6回：論文②を批判的に検討する。</p> <p>第7回：中間振り返り、追加討論</p> <p>第8回：論文③の概要を把握する。</p> <p>第9回：論文③を批判的に検討する。</p> <p>第10回：論文④の概要を把握する。</p> <p>第11回：論文④を批判的に検討する。</p> <p>第12回：中間振り返り、追加討論</p> <p>第13回：論文⑤の概要を把握する。</p> <p>第14回：論文⑤を批判的に検討する。</p> <p>第15回：振り返り、総括</p>			
<p>テキスト</p> <p>参加者と相談の上取り上げる論文を決める。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『現代日本語文法』（日本語記述文法研究会編、くろしお出版）ほか</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参画（発表、討論）（80%）、期末課題（20%）</p>			

授業科目名：日本語学研 究 2	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：川村大 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本語研究に関する専門的知識や研究手法を身につける。特に、先行研究を批判的に検討し、参加者各自のテーマを深める手法を実践的に身につけることを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>参加者各自の研究テーマに関する重要文献（複数）について報告し、討論する。取り上げる論文は現代語・古典語を問わないが、主に古典語に関する文献を取り上げる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の進め方についての説明、取り上げる文献について相談、発表の順番決め。</p> <p>第2回：先行研究をなぜ読むのか、どのように読むのかに関する講義</p> <p>第3回：論文①の概要を把握する。</p> <p>第4回：論文①を批判的に検討する。</p> <p>第5回：論文②の概要を把握する。</p> <p>第6回：論文②を批判的に検討する。</p> <p>第7回：中間振り返り、追加討論</p> <p>第8回：論文③の概要を把握する。</p> <p>第9回：論文③を批判的に検討する。</p> <p>第10回：論文④の概要を把握する。</p> <p>第11回：論文④を批判的に検討する。</p> <p>第12回：中間振り返り、追加討論</p> <p>第13回：論文⑤の概要を把握する。</p> <p>第14回：論文⑤を批判的に検討する。</p> <p>第15回：振り返り、総括</p>			
<p>テキスト</p> <p>参加者と相談の上取り上げる論文を決める。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『実例詳解 古典文法総覧』（小田勝、和泉書院）ほか</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参画（発表、討論）（80%）、期末課題（20%）</p>			

授業科目名： 日本語学研究 3	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 花 蘭 悟 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 日本語モダリティ研究の問題点の一つである独立語文をとりあげ、述語文との違い・問題点について理解する。			
授業の概要 独立語文（一語文）についての代表的な研究を概説する。			
授業計画 第 1 回: 序説一人間の言語と動物の言語 第 2 回: 山田孝雄1908、1936: 『日本文法論』 『日本文法学概論』 (未開展の文) 第 3 回: 時枝誠記1941: 『国語学原論』 (言語過程説) 第 4 回: 三尾砂1948: 『国語法文章論』 (「場の理論」による文の分類) 第 5 回: 奥田靖雄1984: 「文のこと」 (一語文と二語文の決定的な差異) 第 6 回: 山田孝雄の希望喚体と奥田のまぢのぞみ文 (願望文) の設定について 第 7 回: 工藤浩1989: 「現代日本語の文の叙法性・序章」 (独立語文・意欲文・述語文) 第 8 回: 南不二男1993: 『現代日本語文法の輪郭』 (「独立語文の輪郭」 「文の四段階理論」) 第 9 回: 尾上圭介1998: 「一語文の用法」 第 10 回: 英語の一語文(1): H.Sweet1891 (『新英文法』) ほか 第 11 回: 英語の一語文(2): Jespersen1924 (『文法の原理』) ほか 第 12 回: イントネーションの概説: 疑問文イントネーションを中心に。 第 13 回: 一語文のイントネーション (沖縄語との対照を含めて) 第 14 回: 名詞一語文の用法: “日本語で驚いたときに「犬!」と叫ぶのか?” 第 15 回: 振り返り			
テキスト: プリント配布			
参考書・参考資料等: 奥田靖雄著作集刊行会編2015『奥田靖雄著作集 2』むぎ書房、工藤浩2016『副詞と文』ひつじ書房			
学生に対する評価: 授業中の発言 (30%)、課題 (30%)、期末レポート (40%)			

授業科目名： 日本語学研究4	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 幸松英恵 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 日本語文法の概要に関する、やや専門的な知識を得るとともに、他言語文法の習得のための手堅い基盤を養うことをねらう。			
授業の概要 この授業では、文法論の全体像を概観しつつ、諸問題を取り上げる。授業は講義が中心となるが、より深い理解に至るため、各々が自身の頭を使って文を作って検討するという作業も随時取り入れる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：文法とは何か 第3回：文法論の2種 形態論と統語論 第4回：単語・品詞 第5回：名詞 第6回：格 第7回：動詞の活用 第8回：自動詞・他動詞 第9回：受身・使役 第10回：アスペクト 第11回：テンス 第12回：形容詞・副詞 第13回：それ以外の品詞 第14回：文の階層構造 第15回：文の種類			
テキスト 高橋太郎ほか著（2005）『日本語の文法』ひつじ書房			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価			

授業での活動、課題：50%

レポート：50%

授業科目名： 対照日本語研究 1	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 花 蘭 悟 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 日本語と唯一系統関係をもつ琉球語から沖縄語をとりあげ、音声・語彙・文法を学ぶことによ って対照言語学的な観点から言語を分析する方法を身につける。			
授業の概要 沖縄語の文法・語彙を日本語との対照しながら概説する。			
授業計画 第 1 回：琉球語における沖縄語の位置づけ 第 2 回：沖縄語の音声 (1) 母音と子音の特徴 第 3 回：沖縄語の音声 (2) アクセントとイントネーション 第 4 回：沖縄語の文法 (1) 形態論—品詞と語形変化— 第 5 回：沖縄語の文法 (2) 動詞と格 第 6 回：沖縄語の文法 (3) ヴォイス 第 7 回：沖縄語の文法 (4) テンス・アスペクト 第 8 回：沖縄語の文法 (5) モダリティ 第 9 回：沖縄語の文法 (6) 複文① 第 10 回：沖縄語の文法 (7) 複文② 第 11 回：沖縄語の語彙(1) 語彙群① 第 12 回：沖縄語の語彙(2) 語彙群② 第 13 回：沖縄語の語彙(3) 語彙群③ 第 14 回：沖縄語の表記 第 15 回：沖縄語は生き残れるのか?—危機言語としての沖縄語			
テキスト：花蘭悟2020『初級沖縄語』 研究社			
参考書・参考資料等：津波古敏子1992「沖縄中南部方言」河野・亀井他編『言語学大辞典IV』三省堂			
学生に対する評価 ・授業中の発言 (30%)、課題 (30%)、期末レポート (40%)			

授業科目名：対照日本語研究 2	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村彰 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本語を科学的に分析する手法を学び、日本語文法、統語論に関する理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>理論言語学の視点から日本語を分析し、生成文法の最小主義の基礎を学ぶ。また、辞書（辞書アプリを含む）の記述が日本語の統語情報をどの程度とらえているかも確認する。また日本語と他言語を対照してその類似点と相違点についても考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、句構(1)：構成素</p> <p>第2回：句構(2)：主要部、併合、c 統御</p> <p>第3回：句構(3)：数量詞、項構造</p> <p>第4回：句構(4)：小動詞、副詞節</p> <p>第5回：第1回から第4回の授業で扱った上記のテーマのまとめ：日本語と他言語で対照する（日本語内の二つの方言の対照も可）</p> <p>第6回：一致と格(1)：格助詞脱落、抽象格、項構造、内在格</p> <p>第7回：一致と格(2)：時制、ゼロ代名詞、DP分析</p> <p>第8回：一致と格(3)：束縛、受動文</p> <p>第9回：移動(1)：非能格動詞、非対格動詞、素性</p> <p>第10回：第6回から第9回授業で扱った上記のテーマのまとめ：日本語と他言語で対照する（日本語内の二つの方言の対照も可）</p> <p>第11回：移動(2)：非最小連結条件、多重主語構文</p> <p>第12回：移動(3)：不活性要素介在効果、かき混ぜ操作</p> <p>第13回：移動(4)：数量詞繰り上げ、包括制条件</p> <p>第14回：言語の最適設計(1)：普遍文法、言語計算機構</p> <p>第15回：言語の最適設計(2)：位相、最小主義</p>			
<p>テキスト</p> <p>三原健一，平岩健(2006)『新日本語の統語構造：ミニマリストプログラムとその応用』</p>			

参考書・参考資料等

鈴木智美、清水由貴子、中村彰、渋谷博子（2020）「海外の大学における日本語学習者のツール使用状況の解明—ICT時代における教師の教育設計リテラシーの向上を目指して—」日本語・日本学研究 10巻

学生に対する評価

授業貢献度（積極的な発言等）10%、課題40%、期末レポート50%

授業科目名： 日本語教育学研究1	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：海野多枝 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 応用言語学・言語教育学の研究法の1つとして、質的研究法を取り上げ、その可能性を探る。また、応用言語学・言語教育学分野の実証研究を批判的にレビューする力を養う。			
授業の概要 演習形式によるテキストの読解と授業でのディスカッション・解説を通じて、質的研究法への理解を深める。その上で、応用言語学分野における実証研究の例を検討し、そのレビューを学期末レポートとして提出する。			
授業計画 第1回：イントロダクション：質的研究とは 第2回：各自の研究計画の発表 第3回：各自の研究計画と質的研究との関連性 第4回：質的調査法とは何か 第5回：研究デザイン 第6回：文献レビュー 第7回：サンプリング 第8回：観察法 第9回：質的インタビューのタイプ 第10回：質的インタビューの実際 第11回：データ分析とデータ管理 第12回：データ分析のレベル 第13回：理論構築 第14回：妥当性と信頼性 第15回：研究倫理			
テキスト メリアム、S.B. (著) 堀薫夫・久保真人・成島美弥 (訳) 『質的調査法入門—教育における調査法とケーススタディ』 ミネルヴァ書房			

参考書・参考資料等

Heigham, J. and Croker, R. (Eds.) (2009) *Qualitative research in applied linguistics: A practical introduction*. Basingstoke: Palgrave MacMillan.

その他、必要に応じて指示・配布する。

学生に対する評価

授業貢献度（積極的な発言等）30%、発表20%、レポート30%、課題 20%

授業科目名： 日本語教育学研究2	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：海野多枝 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 応用言語学・第二言語習得研究における学習者オートノミーの理論を理解する。			
授業の概要 テキストを演習形式で読み、第二言語学習者オートノミーの背景、定義、理論、研究史を理解する。また、異なる文脈での第二言語学習者オートノミー教育の実践例を理解し、討論を通じて、多様な文脈で学習者オートノミーを実践する方法についても検討を加える。			
授業計画 第1回：イントロダクション：学習者オートノミーとは 第2回：各自の研究計画と学習者オートノミー 第3回：第二言語学習者オートノミーの定義 第4回：学習者オートノミーを支える環境 第5回：学習者オートノミーの実践：ヨーロッパ共通参照枠 第6回：学習者オートノミーの実践：アイルランドの事例 第7回：学習者オートノミーの実践：フィンランドの事例 第8回：学習者オートノミーの実践：日本の事例 第9回：セルフアクセス言語学習 第10回：言語学習のためのアドバイジング 第11回：教室外オートノミーとは 第12回：教室外オートノミーの実際 第13回：学習者オートノミーを取り巻くマクロの文脈 第14回：学習者オートノミーを取り巻くミクロの文脈 第15回：多様な文脈における学習者オートノミーの実践可能性			
テキスト 青木直子・中田賀之『学習者オートノミー』ひつじ書房			
参考書・参考資料等 必要に応じて指示・配布する。			
学生に対する評価 授業貢献（積極的な発言等）30% 発表20% レポート30% 課題20%			

授業科目名： 日本語教育学研究 3	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木智美 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<p>構文・語彙の意味論：日本語の構文・語彙の分析研究論文を、日本語教育の文脈の中に位置付けて的確に読めるようになることを目標とする。さらに、日本語教育の現場と日本語教育研究との連携について考える視点を養う。自身が論文を執筆する際の論述のしかたも批判的に学ぶ。</p>			
授業の概要			
<p>現代日本語の構文・語彙に関する分析論文を読み、先行研究として批判的に検討するとともに、日本語教育の文脈の中で、その意義や研究の方向性について考える。論文講読は、担当者による報告と、それについて皆で議論する形式で進める。担当する論文は指定されたもの、および自身で選んだものの双方を扱う。</p>			
<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 論文①についての検討 (1) 語彙的分析</p> <p>第3回 論文②についての検討 (2) 語彙的分析</p> <p>第4回 論文③についての検討 (3) 語彙的分析</p> <p>第5回 論文④についての検討 (4) 文法的分析</p> <p>第6回 論文⑤についての検討 (5) 文法的分析</p> <p>第7回 論文⑥についての検討 (6) 文法的分析</p> <p>第8回 論文⑦についての検討 (7) 新しい表現</p> <p>第9回 論文⑧についての検討 (8) 新しい表現</p> <p>第10回 これまでの論文の検討を通じて得た観点・手法を参考に、各自興味・関心のある現代日本語の表現(語句、構文等)を選び、分析試案を作成する。自身の修士論文研究テーマと関連のある形式を選んでもよい。</p> <p>第11回 論文⑨についての検討 (9) 認知言語学的視点</p> <p>第12回 論文⑩についての検討 (10) 認知言語学的視点</p> <p>第13回 分析試案報告と検討 (1)</p> <p>第14回 分析試案報告と検討 (2)</p> <p>第15回 振り返り：各論文の検討および分析試案の報告・検討を通じて得られたこと</p>			
テキスト			

特に指定しない	
参考書・参考資料等 必要がある場合、授業内で指示する	
学生に対する評価	
担当論文についての報告	30%
指定論文についてのコメント	10%
議論への参加および毎回のコメントシート	35%
各自の分析試案	25%

授業科目名：日本語教育学研究4	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：荒川洋平 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 認知言語学の理論的な枠組みを知ること			
授業の概要 毎時間、認知言語学の主要なテーマに関して講義と討論を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、認知科学概論 第2回：認知言語学序説 第3回：カテゴリー理論 第4回：スキーマ理論 第5回：概念メタファー論-1 : 理論の前提と概要 第6回：概念メタファー論-2 : 応用と展望 第7回：メトニミー論 第8回：シネクドキ論 第9回：認知多義理論 第10回：認知レトリック論-1 : オクシモロンとジューグマ 第11回：認知レトリック論-2 : トートロジーとハイパボリー 第12回：認知文法論 第13回：講義のまとめ 第14回：語彙の多義ネットワーク作成 第15回：アカデミック・エッセイ			
テキスト 荒川洋平・森山新 (2009) 『日本語教師のための応用認知言語学』 凡人社			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 小課題や提出物 35% 期末課題 65%			

授業科目名： 日本語教育学研究 5	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：阿部 新 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 言語学習や言語教育に関する教育心理学・社会心理学的知識を深める。			
授業の概要 まず、教科書の各章によって教育心理学・社会心理学的観点からの言語学習・言語教育に関する各概念（グループのダイナミズム、自己、ビリーフ、情意、動機づけ、主体性と自己制御、その他）について学ぶ。その後、各概念について数名のグループで内容を振り返るためのアクティビティを行い、ディカッションを行って、その内容をクラス全体に発表しつつ、クラス全体で討論し、概念の理解を深める。学期最後には、各自が最も興味を持った概念について、各自の学習者としての、もしくは教師としての体験を通して、まとめのレポートを執筆する。			
授業計画 第1回：授業オリエンテーション 第2回：導入：教育における心理 第3回：概念1（グループのダイナミズム）の講義 第4回：概念1のアクティビティと振り返りディスカッション 第5回：概念2（自己）の講義 第6回：概念2のアクティビティと振り返りディスカッション 第7回：概念3（ビリーフ）の講義 第8回：概念3のアクティビティと振り返りディスカッション 第9回：概念4（情意）の講義 第10回：概念4のアクティビティと振り返りディスカッション 第11回：概念5（動機づけ）の講義 第12回：概念5のアクティビティと振り返りディスカッション 第13回：概念6（主体性と自己制御）の講義 第14回：概念6のアクティビティと振り返りディスカッション 第15回：まとめと全体の振り返り			
テキスト 授業内で配布または指示する。			
参考書・参考資料等 Williams, M., S. Mercer, & S. Ryan. (eds.) (2015). <i>Exploring psychology in language</i>			

learning and teaching. Oxford University Press.

Mercer, S., S. Ryan & M. Williams. (eds.) (2012). *Psychology for language learning: Insights from research, theory and practice*. Palgrave and Macmillan.

学生に対する評価

各回コメント（第2回～第14回） $5\% \times 13回 = 65\%$ 、まとめのレポート25%、全体への貢献10%

授業科目名： 日本語教育学研究 6	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：阿部 新 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 言語学習者や言語教師に関する第二言語習得・言語教育学的知識を深める。			
<p>授業の概要</p> <p>まず、教科書の各章によって第二言語習得・言語教育学的観点からの言語学習者・言語教師に関する各概念（パーソナリティ、言語適性、動機づけ、学習スタイル、学習ストラテジー、不安、ビリーフ、Willingness to communicate、その他）の研究の展開について学ぶ。その後、各概念について数名のグループで内容を振り返るためのアクティビティを行い、ディスカッションを行って、その内容をクラス全体に発表しつつ、クラス全体で討論し、概念の理解を深める。学期最後には、各自が最も興味を持った概念について、日本語教育学分野の研究レビューレポートを執筆する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業オリエンテーション</p> <p>第2回：導入：言語学習者や教師の心理</p> <p>第3回：概念1（パーソナリティ）の講義</p> <p>第4回：概念1のアクティビティと振り返りディスカッション</p> <p>第5回：概念2（言語適性）の講義</p> <p>第6回：概念2のアクティビティと振り返りディスカッション</p> <p>第7回：概念3（動機づけ）の講義</p> <p>第8回：概念3のアクティビティと振り返りディスカッション</p> <p>第9回：概念4（学習スタイル）の講義</p> <p>第10回：概念4のアクティビティと振り返りディスカッション</p> <p>第11回：概念5（学習ストラテジー）の講義</p> <p>第12回：概念5のアクティビティと振り返りディスカッション</p> <p>第13回：概念6（その他の概念）の講義</p> <p>第14回：概念6のアクティビティと振り返りディスカッション</p> <p>第15回：まとめと全体の振り返り</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業内で配布または指示する。</p>			
参考書・参考資料等			

Dörnyei, Z. & S. Ryan. (eds.) (2015) *The psychology of the language learners revisited*. Routledge.

Mercer, S. & A. Kostoulas. (eds.) (2018) *Language teacher psychology*. Multilingual Matters.

学生に対する評価

各回コメント（第2回～第14回）5%×13回=65%、研究レビューレポート25%、全体への貢献10%

授業科目名： 日本語教育学研究 7	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊達 宏子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1) 日本語教育において必要な音声知識を身に付ける。 2) 音響分析を行い音声研究手法の基礎を身に付ける。			
授業の概要			
実際に発音、発話したり、音声を録音したりしながら、音声を客観的に観察し、分析する能力を養う。授業内容は、日本語教師志望者、音響分析を伴う音声研究をこれから始めたい者に適している。パソコン実習を行うため、自分の使い慣れたPC、マイクを教室に持参する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス・受講者背景とニーズ把握 第2回：音声の生成の仕組み 第3回：母音 第4回：子音 第5回：アクセント・OJAD活用法 第6回：イントネーション・ポーズ・リズム 第7回：praatを使った音響分析実習・操作法 第8回：母語や学習言語の母音・子音の特徴の調査報告 第9回：母音（波形、フォルマント分析） 第10回：子音（波形、フォルマント分析） 第11回：アクセント・イントネーション（F0パターン、レンジ分析） 第12回：ポーズ・リズム（継続時間長分析） 第13回：学習した内容を踏まえた、各自課題設定による音響分析と考察 第14回：発表①（学生グループA） 第15回：発表②（学生グループB）			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 事前に自分のPC環境に合うpraatをダウンロードする。 http://www.fon.hum.uva.nl/praat/			

事前にOJADのサイトを使ってみる。<http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/>
実習では、事前課題として自宅で音声収録を行う。

学生に対する評価

授業内容に関するクイズ，授業中の取組20%

課題20%

発表20%

期末レポート40%

授業科目名： 日本語文学・文化研究 1	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西原大輔
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本語の戦後詩を読む（前半）</p> <p>詩を分析する方法を理解する。詩的なテキストの解釈の技法を身につける。また、詩人たちの実人生と作品とのつながりについても、理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>昭和戦後とは、昭和20（1945）年の敗戦から、昭和64（1989）年の昭和天皇崩御までを指す。その前半にあたる時期の著名な詩を取り上げ、論じてゆく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 導入、三好達治の詩「祖母」を解釈する。</p> <p>第2回： 堀口大学の詩「母の声」、および伊東静雄の詩「夏の終り」を解釈する。</p> <p>第3回： 丸山薫の詩「北の春」を解釈する。</p> <p>第4回： 壺井繁治の詩「熊」、および金子光晴の詩「富士」を解釈する。</p> <p>第5回： 三好豊一郎の詩「囚人」を解釈する。</p> <p>第6回： 高見順の詩「天」、および原民喜の詩「碑銘」を解釈する。</p> <p>第7回： 谷川俊太郎の詩「かなしみ」「二十億光年の孤独」を解釈する。</p> <p>第8回： 飯島耕一の詩「他人の空」を解釈する。</p> <p>第9回： 村野四郎の詩「さんたんたる鮫鱈」、および中村稔の詩「凧」を解釈する。</p> <p>第10回： 鮎川信夫の詩「死んだ男」を解釈する。</p> <p>第11回： 吉野弘の詩「奈々子に」「初めての児に」を解釈する。</p> <p>第12回： 茨木のり子の詩「六月」「わたしが一番きれいだったとき」を解釈する。</p> <p>第13回： 村野四郎の詩「鹿」、石垣りんの詩「私の前にある鍋とお釜と燃える火と」を解釈する。</p> <p>第14回： 文学館または文学者ゆかりの地を尋ねる（フィールドワーク）。</p> <p>第15回： 第14回で訪れた文学館等についての発表（まとめ）。</p>			
テキスト	西原大輔『日本名詩選 3 昭和戦後篇』笠間書院、平成27年		
参考書・参考資料等	必要に応じて講義中に参考資料を配布する		
学生に対する評価	参加姿勢（積極的な発言等）25%、課題25%、期末レポート50%		

授業科目名： 日本語文学・文化研究2	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西原大輔
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 日本語の戦後詩を読む（後半） 詩を分析する方法を理解する。詩的なテキストの解釈の技法を身につける。また、詩人たちの 実人生と作品とのつながりについても、理解する。			
授業の概要 昭和戦後とは、昭和20（1945）年の敗戦から、昭和64（1989）年の昭和天皇崩御までを指す。 その後半にあたる時期の著名な詩を取り上げ、論じてゆく。			
授業計画 第1回： 導入、高田敏子の詩「橋」「小さな靴」を解釈する。 第2回： 関根弘の詩「この部屋を出てゆく」、および石原吉郎の詩「位置」を解釈する。 第3回： 黒田三郎の詩「夕方の三十分」「紙風船」を解釈する。 第4回： 高見順の詩「青春の健在」、および吉本隆明の詩「佃渡して」を解釈する。 第5回： 山之口獺の詩「処女詩集」、および三木卓の詩「系図」を解釈する。 第6回： 谷川俊太郎の詩「朝のリレー」、および新川和江の詩「わたしを束ねないで」を解釈する。 第7回： 石垣りんの詩「シジミ」「表札」「くらし」「幻の花」を解釈する。 第8回： 石垣りんの詩「崖」「空をかついで」「洗剤のある風景」を解釈する。 第9回： 菅原克己の詩「マクシム」、および大木実「前へ」を解釈する。 第10回： 谷川俊太郎の詩「生きる」「かつば」「いるか」「芝生」を解釈する。 第11回： 吉野弘の詩「虹の足」「生命は」「祝婚歌」を解釈する。 第12回： 茨木のり子の詩「自分の感受性くらい」、および中桐雅夫の詩「会社の人事」を解釈する。 第13回： 崔華国の詩「洛東江」、および入沢康夫の詩「未確認飛行物体」を解釈する。 第14回： 文学館または文学者ゆかりの地を尋ねる（フィールドワーク）。 第15回： 第14回で訪れた文学館等についての発表（まとめ）。			
テキスト	西原大輔『日本名詩選3 昭和戦後篇』笠間書院、平成27年		
参考書・参考資料等	必要に応じて講義中に参考資料を配布する		
学生に対する評価	参加姿勢（積極的な発言等）25%、課題25%、期末レポート50%		

授業科目名： 日本語文学・文化研究3	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： ハウカンブ イリス 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
日本における映画と社会の相互作用の理解			
分析資料としての映画の活用			
授業の概要			
<p>この授業では、日本映画と日本の社会史に焦点を当てながら、メディアと社会の相互作用について考える。これらの問題を、産業的、社会的、政治的背景を前にした映画の綿密な分析を通して考察する。映画が、確かに、「空想、不確実性、不安を明確に表現するためのマトリックス」(Hansen, 2000: 14)であるとすれば、ここに、映画というメディアを通じて、これらの社会問題をより深く掘り下げる可能性がある。さらに、ハンセンによって支持されているように、能動的な観客モデルは、「その大衆に関わり、その特定のニーズと幻想に対応するために、映画は複数の読みを可能にするほど堅牢かつ多孔質でなければならない」(20)ことを認めている。それらの作品に観客が積極的に参加することで、様々な社会問題が絡んだ会話力が浮き彫りになる。映画と社会の相互作用を理解し、分析するためには、関連する日本の映画史や社会史のしっかりとした基礎が必要である。したがって、この授業は日本の歴史や社会に関する他の授業と組み合わせて行うことができる。授業は、2つの導入講義と5つのテーマブロックからなり、各ブロックでは特定の映画と関連する社会問題についてプレゼンテーションとディスカッションが行われる。映画はもちろん、その他の一次資料、二次資料も使用する。映画研究の基本的なスキルを紹介し、実践し、授業で上映される映画に適用することで定着させる。</p>			
授業計画			
第1回：授業についての説明			
第2回：映画の "読み方" について			
第3回：東京の合唱 (1931, 小津 安二郎), その概説と分析			
第4回：東京の合唱 (1931), モダニティー、そして感覚反射的な空間としての映画			
第5回：陸軍 (1944, 木下 恵介), その概説と分析			
第6回：陸軍 (1949), 想像の共同体と抑圧下の表現			
第7回：日本解放戦線 三里塚の夏, (1968, 小川 紳介), その概説と分析			

第8回：日本解放戦線 三里塚の夏 (1968) ドキュメンタリー、社会批評、プロテスト

第9回：その男、凶暴につき (1989, 北野 武) , その概説と分析

第10回：その男、凶暴につき (1989), 社会変動、暴力、メディア

第11回：Go (2001, 行定 勲) , その概説と分析

第12回：Go (2001), マイノリティ、そして映画 産業

第13回：万引き家族 (2018, 是枝裕和) , その概説と分析

第14回：万引き家族 (2018), 新しい家族モデルと都市貧困

第15回：(日本) 映画の社会的な「機能」

テキスト

第1回：テキストはない

第2回：Bordwell, David, and Kristin Thompson. 2012. *Film Art: An Introduction* pp. 450-456. & Glossary

第3回：Wada-Marciano, Mitsuyo. 2008. *Nippon Modern: Japanese Cinema of the 1920s and 1930s*. Honolulu: University of Hawai'i Press. Chapter 2: 'Vernacular Meaning of Genre: The Middle-Class Film', pp. 43-61.

第4回：Hansen, Miriam: "Fallen Women, Rising Stars, New Horizons: Shanghai Silent Film as Vernacular Modernism," *Film Quarterly* (vol. 54 no. 1, Fall 2000, pp. 10-22).

第5回：Salomon, Harald. 2011. Views of the Dark Valley: *Japanese Cinema and the Culture of Nationalism, 1937-1945*. Wiesbaden: Harrassowitz. Chapter 7 "Awarded Feature Films and the Culture of Nationalism", pp. 212-260.

第6回：Anderson, Benedict. 2005. 'Imagined Communities'. in *Nations and Nationalism: A Reader* eds. Philip Spencer, and Howard Wollman, 48-60. Edinburgh: Edinburgh University Press. Original publication, 1983.

第7回：Nornes, Markus. 2007. 'Chapter 1'. *Forest of Pressure: Ogawa Shinsuke and Postwar Japanese Documentary*. Minneapolis: University of Minnesota Press.

第8回：de Jong, Wilma. 'Life does not tell stories: structuring devices in documentary filmmaking'. in *Creative Documentary: Theory and Practice*. eds. Wilma de Jong et. al., 98-117. Edinburgh: Pearson.

第9回：Gerow, Aaron. 2007. 'Violent Cop'. in *Kitano Takeshi*. London: British Film Institute: 65-76.

第10回：Slocum, J. David. 2000. 'Film Violence and the Institutionalization of the Cinema'. *Social Research* 67, no. 3: 649-681

第11回：Fukuoka, Yasunori. 2004. 'Japan's Korean Minority Today'. in *Race, Ethnicity and Migration in Modern Japan (2)*, ed. Michael A. Weiner, 219-240. London: RoutledgeCurzon.

第12回：Dyer, Richard. 1999. 'The Role of Stereotypes'. in *Media Studies: A Reader* eds. Paul Marris, and Sue Thornham, 245-251. Edinburgh: Edinburgh University Press.

第13回：Ehrlich, Linda. 2019. *The Films of Kore-eda Hirokazu: An Elemental Cinema*. London: Palgrave

e Macmillan: 193-216.

第14回: Sekine, Yuki. 2008. 'The rise of poverty in Japan: The emergence of the working poor'. *Japan Labor Review* 5(4): 49-66.

第15回: テキストはない

参考書・参考資料等

学生の相談の上、追加読参考書を提供する。

学生に対する評価

- 授業への参加（ディスカッション、建設的なコメント）：20%
- プレゼンテーション（個人またはグループ）：30%
- 論文（2500 words、脚注・参考文献を含む）：50%

学生は選んだ日本映画について、社会問題との関連性を分析する。理論的アプローチ（歴史、産業、美学など）は自由だが、映画的側面（撮影、ミザンセーン、音響、編集...）も分析に含める必要がある。。盗用に関する規制が適用される。第10回の前に、選択したトピックについて簡単に授業担当教員に要相談（授業後、オフィスアワー、予約など）。

授業科目名： 日本語文学・文化研究4	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： ハウカンブ イリス
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>戦時中の日本映画の総合的な、映画史的分析を行う。</p> <p>戦時中の日本とその文化産業への理解を深める。</p> <p>過去との関わりを考える。</p> <p>教育資源としての歴史映画の検討。</p> <p>プロジェクトでの協働。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>このクラスは、映画と歴史の相互作用、日本の戦時体験、映画分析に興味のある大学院生を対象としている。</p> <p>文化作品は、その時代の欲望、恐怖、願望、イデオロギーを反映している。それゆえ、その時代を垣間見ることができるのである。共同作業による視聴覚メディアである映画は、テキストとして多くの「データ」を含んでおり、映画が企画、制作、配給、展示された時代をより深く理解するために分析することができる。</p> <p>このような包括的で「深い」映画史的分析は、様々な角度から作品にアプローチする必要があるため、時間がかかる。毎週、異なる視点から映画を考察することで、ゆっくりと自分なりのナラティブを構築している。文化的産物としての歴史映画を扱う際に必要な問いは、以下のような物語的、映画的、歴史的側面である。この映画で扱われている主な問題は何か？何を（出来事、状況）表現しているか、場所はどこか、主人公は誰か？制作者はその問題をどのように観客に表現することにしたのか。映画製作者の選択は、その目的について何を語っているか？映画の中に実際の歴史的事実（実際の戦闘や事件）が表現されているか？映画的な表現は、その事件に関して知られていることと一致しているか、あるいは異なっているか。これらの疑問に答えるため、必要な資料を特定し、可能な限りアクセスする（脚本、政府文書、インタビュー、ニュース映画などの関連メディア、博物館資料など）。</p> <p>疑問を持ち、答えを探すプロセスは、漸進的かつ反復的である：あらゆる優れた研究と同様に、新しい発見や異なる側面の交錯に照らして、これまでの「答え」を再評価する必要があるかもしれない。</p>			

授業は英語で行われるが、必要な資料（批評、レビュー、脚本、ニュース映画などの関連資料）は日本語で書かれているので、知識があれば望ましい。ただし、本来、授業は共同プロジェクトの側面を有しており、学生個人の得意分野や希望に応じて授業の内容を分担している。従って、このプロジェクトの成功、およびこのクラスの成績は、学生の授業への積極的な参加に基づいている。論文では、発表した内容をさらに発展させたり、担当教員と相談した上で、映画に関連する別のトピックに踏み込んだりすることも歓迎する。

授業計画

- 第1回：授業についての説明およびどの映画について研究するか決定
- 第2回：映画上映と関連するポイントや質問についてのディスカッション
- 第3回：講義：映画と歴史：理論的枠組み
- 第4回：それぞれの研究テーマの発表
- 第5回：講義：映画分析の基礎
- 第6回：グループワーク：筋、キャスト&スタッフリスト、フィルムセグメンテーション
- 第7回：見学：昭和館
- 第8回：論文要旨の発表。ディスカッションと質疑応答
- 第9回：講義：映画制作の歴史的・政治的背景
- 第10回：インタビューとアーカイバルワーク
- 第11回：研究プロジェクトの発表とグループフィードバック 1 (3名)
- 第12回：研究プロジェクトの発表とグループフィードバック 2 (3名)
- 第13回：レセプションと批評
- 第14回：直前の質問とグループでのブレインストーミング
- 第15回：Review: Writing a history of a film & our understanding of history

テキスト

Bordwell and Thompson の *Film Art: An Introduction* から関連する章（図書館で閲覧可能）。

参考書・参考資料等

この授業では、教科書はない。関連する補助的な文献は、図書館等で入手できる。

参考書：

- Anderson, Benedict. 1993. *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*. London: Verso.
- Anderson, Joseph and Donald Richie. 1982. *The Japanese Film: Art and Industry*. Princeton: Princeton University Press..
- Davis, Darrell William. 1996. *Picturing Japaneseness: Monumental Style, National Ide*

- ntity, Japanese Film. New York: Columbia University Press.
- Goodman, Alan. 1976. Languages of Art: An Approach to a Theory of Symbols. Indianapolis: Hackett.
- Harootunian, Harry. 2000. Overcome by Modernity: History, Culture and Community in Interwar Japan. Princeton University Press.
- Hobsbawm, Eric and Terence Ranger. 1993. The Invention of Tradition. Cambridge: Cambridge University Press.
- Kushner, Barak. 2006. The Thought War: Japanese Imperial Propaganda. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- McClain, James L. 2002. Japan: A Modern History. New York: W.W. Norton.
- Morris-Suzuki, Tessa. 2005. The Past Within Us: Media, Memory, History. London; New York: Verso.
- Nornes, Abé Markus. 2003. Japanese Documentary Film: The Meiji Era Through Hiroshima. Minneapolis: University of Minnesota Press.
- Ohnuki-Tierney, Emiko. 2002. Kamikaze, Cherry Blossoms, and Nationalisms: The Militarization of Aesthetics in Japanese History. Chicago, Ill.; London: University of Chicago Press.
- Rosenstone, Robert A. 2006. History on film/film on history. History, concepts, theories and practice. Harlow: Pearson/Longman.
- Salomon, Harald. 2011. Views of the Dark Valley: Japanese Cinema and the Culture of Nationalism, 1937-1945. Wiesbaden: Harrassowitz.
- Sharp, Jasper. 2011. Historical Dictionary of Japanese Cinema. Lanham, Md.: Scarecrow Press.
- Standish, Isolde. 2005. A New History of Japanese Cinema. London: Continuum.
- Tansman, Alan. ed. 2009. The Culture of Japanese Fascism. Durham: Duke University Press.
- Thompson, Kristin and David Bordwell. 2003. Film History: An Introduction. London: McGraw-Hill.
- Wada-Marciano, Mitsuyo. 2008. Nippon Modern: Japanese Cinema of the 1920s and 1930s. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- White, Hayden. 1987. The Content of the Form: Narrative Discourse and Historical Representation. Baltimore: Johns Hopkins University Press.

学生に対する評価

インタビューやアーカイブに関するレポート (800 words 以内) : 20%

論文 (2,500 words): 50%

授業への参加（ディスカッション、建設的なコメント、Moodleへの投稿）：30%

授業科目名： 日本語文学・文化研究 5	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土田 耕督 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 「中世和歌の方法と理想」の解明 本授業の目標は、中古・中世日本の言語芸術に対する包括的な理解を深めるだけでなく、通時的・局所的な考察によって得られた概念や理論を、共時的・普遍的な類推に活かす能力を養うところにあります。			
授業の概要 本授業では日本の古典文学、とりわけ平安時代から室町時代にかけての和歌から、創作にかかわる方法と美的理想を抽出し、それらの翻訳可能性を追求します。翻訳可能性とは、異なった事象どうしの類比に論理を注入する源にほかなりません。文化・芸術の比較研究のために、類比的観点は不可欠です。			
授業計画 第1回：序論：日本古典文学の〈可能性〉 第2回：「やまとうた」と「和歌」—歌・詩の〈同質化／緩和〉 第3回：古／今の「和歌集」—〈システム〉の起動 第4回：「本」としての「古歌」—心・ことばの〈例示／範示〉 第5回：「古歌を本歌とす」—〈パロディ〉によるシステムの更新 第6回：〈パロディ〉という方法が適用できる事例（作品） 第7回：「古歌を取る」(1)—ことばの〈流用〉 第8回：「古歌を取る」(2)—〈リミックス〉によるシステムの拡充 第9回：「古歌を取る」(3)—〈リミックス〉による古典の〈擬装〉 第10回：〈リミックス〉という方法が適用できる事例（作品） 第11回：〈擬-古典主義〉と和歌の持続可能性 第12回：「ありのまま・心のまま」—〈写実性〉の希求 第13回：「人の心」と「本歌の心」—心の〈流用〉による〈パロディ〉 第14回：「あたらし／めづらし」—〈独創性〉の定立 第15回：総論：〈方法〉と〈理想〉の適用例			
テキスト			

各回に資料として配布します。

参考書・参考資料等

土田耕督『「めづらし」の詩学：本歌取論の展開とポスト新古今時代の和歌』（大阪大学出版会、2019）

学生に対する評価

課題（50％）と、期末レポート（50％）の点数を総合して評価します。

授業科目名： 日本語文学・文化研究 6	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土田 耕督 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 「中世日本芸術の方法と理想」の解明 本授業の目標は、中古・中世日本の芸術に対する包括的な理解を深めるだけでなく、通時的・局所的な考察によって得られた概念や理論を、共時的・普遍的な類推に活かす能力を養うところにあります。			
授業の概要 本授業では日本の伝統芸術、とりわけ平安時代から室町時代にかけての連歌・庭から、創作にかかわる方法と美的理想を抽出し、それらの翻訳可能性を追求します。翻訳可能性とは、異なった事象どうしの類比に論理を注入する源にほかなりません。文化・芸術の比較研究のために、類比的観点は不可欠です。			
授業計画 第1回：序論：中世日本芸術研究の〈可能性〉 第2回：即詠説話と短連歌—〈即時性＝即興〉の志向 第3回：本歌取と長連歌—〈敏速性〉の希求 第4回：ポスト新古今時代の和歌・連歌—〈敏速な反応〉の諸相 (1) 第5回：「花の下」連歌の実体—〈敏速な反応〉の諸相 (2) 第6回：〈敏速な反応〉という方法が適用できる事例 (作品) 第7回：地下連歌と「寄合」—ことばの〈自動補完〉 第8回：「花の下」から北野社・西芳精舎へ—連歌の〈正統文芸化〉 第9回：「当座の感」と「心付」—〈即興＝表現〉の希求 第10回：「山水」を「つくる」(1)—絵の〈再現〉 第11回：「山水」を「つくる」(2)—自然風景の〈擬装〉 第12回：「石を立つ」—形態の〈協調〉と構想の〈具現化〉 第13回：「山水に仮る」—自然風景の〈実質化〉 第14回：〈擬装〉あるいは〈実質化〉という方法が適用できる事例 (作品) 第15回：総論：〈方法〉と〈理想〉の適用例			
テキスト			

各回に資料として配布します。

参考書・参考資料等

土田耕督『「めづらし」の詩学：本歌取論の展開とポスト新古今時代の和歌』（大阪大学出版会、2019）

学生に対する評価

課題（50％）と、期末レポート（50％）の点数を総合して評価します。

授業科目名： 日本比較文学・文化研究 1	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 菅長 理恵 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項」 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 比較文学的手法を参照しつつ世界の俳句受容の在り方を紐解いていくことをテーマとする 比較文学的手法を理解し、自分自身の研究テーマにおける活かし方を把握することを目標とする			
授業の概要 比較文学研究の概要、および、俳句を中心とした具体的な比較文学研究の事例を学ぶ 資料購読と並行して、受講者の興味関心・研究テーマに応じて課題を定め、演習を行う			
授業計画 第 1 回：比較文学研究とは ・資料購読 渡邊洋『比較文学研究入門』(世界思想社1997)第1章「比較文学の前史と誕生」 ・自己紹介 「私の研究テーマ」「私の研究史」「この授業で学びたいこと」 第 2 回：影響—被影響関係 ・資料購読 土田知則・青柳悦子『文学理論のプラクティス』(新曜社2001)「影響関係を脱構築する」 第 3 回：比較文学研究における「問い」 ・資料購読 芥川龍之介「僻見」(『女性改造』第三卷第三号1924) 第 4 回：比較文学研究における「東西」 ・資料購読 平川祐弘「東の橘と西のオレンジ—文学的感受性の伝播のあとをたどって—」 (東京大学出版会『講座比較文学6 東西文明圏と文学』所収1974) 第 5 回：文学研究における「術語」 ・資料購読 柳父章『翻訳語成立事情』(岩波新書1982)「美」 第 6 回：研究発表の仕方・レジュメの書き方1：フォーマットと作法 第 7 回：研究テーマ発表・質疑応答 第 8 回：文学研究と翻訳 ・資料購読 井上健「文化と文体の翻訳をめぐって」(『比較文学の世界』南雲堂2005所収) 第 9 回：比較文学的俳句研究 1 ・資料購読 佐藤和夫『菜の花は移植できるか—比較文学的俳句論—』(桜楓社1978)			

第10回：比較文学的俳句研究2

・資料購読 上田真『蛙飛び込む』（明治書院1979）

第11回：研究発表の仕方・レジュメの書き方2：構成と論理

第12回：第1回 比較文学的俳句研究発表・質疑応答

第13回：比較文学的俳句研究3-1

・資料購読 川本皓嗣「俳諧の詩学」（岩波書店『俳諧の詩学』2019所収）

第14回：比較文学的俳句研究3-2

・資料購読 川本皓嗣「俳諧の比較詩学」（岩波書店『俳諧の詩学』2019所収）

第15回：第2回 比較文学的俳句研究発表・質疑応答

テキスト

渡邊洋『比較文学研究入門』（世界思想社 1997）

土田知則・青柳悦子『文学理論のプラクティス』（新曜社 2001）

柳父章『翻訳語成立事情』（岩波新書 1982）

井上健『比較文学の世界』（南雲堂 2005）

川本皓嗣『俳諧の詩学』（岩波書店 2019）

参考書・参考資料等

芥川龍之介「僻見」（青空文庫）

東京大学出版会『講座比較文学6 東西文明圏と文学』1974

佐藤和夫『菜の花は移植できるか—比較文学的俳句論—』（桜楓社1978）

上田真『蛙飛び込む』（明治書院1979）

学生に対する評価

第7回発表 15%・最終回発表 20% その他、課題 65%